



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第61号(2009年12月11日)

「逆行高のアジア関連銘柄」

ここ最近の世界の株式市場を見渡してみると、リーマン・ショック後の最悪期を脱し、年初からの高値を更新している市場が数多くあります。特に中国、インド、ブラジル等の新興国の株式市場は力強い上昇を遂げております。しかしながら日本の株式市場に目を転じてみますと、引き続き低迷を続けており、主要株式市場の中でも最も出遅れている市場の一つとなっております。

要因としては「緩やかなデフレ局面」に陥った国内景気の低迷、急激な円高に伴う輸出企業の収益悪化懸念、相次ぐ巨額の増資による需要悪化懸念、政治の混乱など悪材料を挙げるときりがない状況といっても過言ではありません。

日本株式市場全体を見ると上記のような、理由から非常に悲観的になってしまうのもある意味当然かもしれません。しかしながら個別の銘柄を見ていくと、このような環境の中でも株価が上昇している銘柄も存在します。ではどのような銘柄が上っているのでしょうか。数少ない株価が上がっている銘柄のうち特に目立つのは、新興国、特にアジア地域での成長が期待される銘柄です。

そういった銘柄の一つとしてユニチャームがあげられます。ユニチャームは12/9現在、年初来高値を更新し、株価も堅調に推移しております。要因としては2010年3月期の第2四半期決算において、売上高が前年同期比1.5%増、営業利益が同40.5%増と売上・利益ともに上期時点での過去最高の数字を計上する好調な業績にあります。その中でアジア地域での売上の伸びが大きく業績を牽引し、特に中国(同35%増)、インドネシア(同49%増)など人口が多く今後の成長が期待できる地域において着実に成長を遂げています。またインドやロシアにも現地法人を設立し、工場の建設に着手する等、新たな成長の種も蒔いております。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。